

山の仕事で田園回帰

ただいま山村に移住する若者たちが増加中！
「山の仕事」が新しい人を迎え入れるベースになる。

坂口若葉さん（23歳）は今年、京都の大学を卒業してUターン。高知県佐川町の「地域おこし協力隊」になって、現在、自伐型林業の研修中
写真提供＝高知県佐川町

実家の40haの山で 自伐林家になりました！

文 大谷訓大くにおひろ（鳥取県智頭町・株式会社早月屋代表）

ヒップホップから祖父の山へ

中学生のころヒップホップにハマった。1970年代、アメリカのストリートで生まれ育つたこの文化は、ラップやDJ、ダンスやグラフィックアートの表現者たちが地元への誇りや愛を象徴しるし（represent）するスタイルが大きな特徴でもある。この represent という言葉は今でも僕の心の中にしっかりと残っている。

地元の高校を卒業後、親に大阪の建築専門学校に行かせてもらった。田舎から出てきた青臭い子供に大阪の街は刺激的で、ろくに勉強しなかったのもあり卒業後は定職につかなかった。気の合う友達もいて毎日はそのなりに楽しかった。けれど利他的に過ぎる日々を不安に思うことも時折あった。

大きな不安に襲われたある朝、ヒップホップが生まれた国アメリカに行こうと決断した。すぐに荷物をまとめ家を引き払い、実家に帰って

留学の準備を始めた。それから1年後に渡米、23歳のときだった。

2010年、1年の留学を終えて日本に帰ってきた後、日本人としてのアイデンティティが芽生えていることに気づいた。そして留学前には目に入らなかった景色が目に入ってきた。それは祖父が残してくれた40haの山林である。60歳にさしかかる前に他界した祖父が父の出生記念に植えたというヒノキ山が最初の現場となった。

同年、県が主催する「鳥取式作業道」の講習を受講した。作業道づくりから林業の世界に入ったのは本当によかったと思う。なぜなら作業道とは山に通ず動脈。数年で崩れるような道では次の施業時に多大なコストとなってしまうし、何より後戻りできない深刻な環境破壊を引き起こす恐れもあるからだ。

僕が重きをおく道づくりのポイントは幅員2・5m以下を厳守すること。なぜなら大きく



人口約7600人。町の93%を占める山林はほとんどスギで「杉神社」もある。東日本大震災以降、子育て世代の移住が増えており、山の仕事について人も多い

切り盛りした道ほど崩れやすく、大型の林業機械を林内に入れないことで目先の利益にとらわれた過度な伐採を防ぐことにもつながるからだ。
副業型自伐林業は「お百姓さん」

昨今、「副業型自伐林業」という言葉をよく耳にする。おそらく僕の経営もそれに当てはまるのだろう。漢字で見るとガチッとしたいイメージ



著者（33歳）。5年前にUターンして山林40ha＋水田1.5haを経営。持ち山の材を搬出するだけでなく、他の山主からの依頼で作業道開設や施業も請け負う



山・里山